



## トラフィック メトリックの管理

Prime Infrastructure は、エンドポイントとサイト間で Real-Time Transport Protocol (RTP) および TCP アプリケーションのトラフィック パスのトレーシングをサポートしています。データ パスのトレーシングは、Cisco メディアネットおよび Web Services Management Agent (WSMA) によって異なります。両方は、RTP および TCP データ ストリームから問題の切り離し、トラブルシューティングする Cisco IOS および Catalyst IOS ソフトウェア イメージの組み込まれた機能です。Prime Infrastructure は、メディアネットおよび WSMA のすべてのバージョンをサポートしており、ルータでの有効化を容易にしています。

Cisco Network Analysis Module (NAM) トラフィックのモニタリング データが利用できない場合、Prime Infrastructure は Medianet Performance Monitor と Cisco IOS NetFlow を使用して RTP サービスパスのトレーシング (Mediatrace) をサポートします。適切に設定されている場合、RTP および TCP アプリケーション問題をトラブルシューティングするときに、Mediatrace が最も有用なツールになります。

Prime Infrastructure の Mediatrace 機能を使用する前に、次の前提設定タスクを実行する必要があります。これらの前提タスクは、ネットワーク トラフィック (RTP および TCP) パフォーマンス メトリックをモニタするために、データ (メトリック コレクション) ソースとして機能するように Cisco ルータ (ISR、ISR G2、ASR) および NAM デバイスを有効にするのに必要になります。

- 「データ ソースとして NAM デバイスを使用するための Prime Infrastructure の設定」 (P.12-1)
- 「データ ソースとしてルータおよびスイッチを使用するための Prime Infrastructure の設定」 (P.12-2)
- 「ルータとスイッチでの Mediatrace の設定」 (P.12-3)
- 「ルータおよびスイッチへの WSMA および HTTP (S) 機能の設定」 (P.12-4)

## データ ソースとして NAM デバイスを使用するための Prime Infrastructure の設定

ネットワークがネットワーク トラフィックのモニタに NAM を使用する場合、次の手順を実行して、RTP および TCP トラフィックの両方のサービス パスをトレースします。

- ステップ 1** システムに NAM を追加します。これは、ディスカバリを使用して自動で実行するか、一括インポートまたは Device Work Center を使用して手動で実行することができます (『Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide』の「[Adding Devices Using Discovery](#)」を参照)。
- ステップ 2** NAM データ収集を有効にします。次の手順を実行します。
- a. [Administration] > [System Settings] > [Data Sources] を選択します。

- b. NAM データ コレクタのセクションまでスクロールし、各 NAM のデータ収集を有効にします。詳細については、『*Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide*』の「[Enabling NAM Data Collection](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 組織のサイト構造を作成し、Device Work Center を使用して、適切なサイトに主要なルータを割り当てます。次の手順を実行します。
- a. [Design] > [Management Tools] > [Site Map Design] を選択します。
  - b. 1 つ以上のキャンパスを追加します。詳細については、『*Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide*』の「[Creating Locations or Sites](#)」を参照してください。
- ステップ 4** 承認済みデータ ソースとサイトを関連付けます。次の手順を実行します。
- a. [Administration] > [System Settings] を選択してから、[Data Deduplication] を選択します。
  - b. [Enable Data Deduplication] をクリックしてから、音声/ビデオ (RTP データ用) およびアプリケーション応答時間 (TCP データ用) に権限のあるデータ ソースを割り当てます。詳細については、「[バックグラウンドデータの収集タスクの制御 \(P.6-7\)](#)」を参照してください。
- ステップ 5** エンドポイント サブネットにサイトを関連付けます。次の手順を実行します。
- a. [Design] > [Management Tools] > [Endpoint-Site Association] を選択します。
  - b. サイトにサブネットを関連付けます。詳細については、『*Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide*』の「[Associating Endpoints with a Location](#)」を参照してください。



(注) この作業を怠ると、デフォルトでこれらのエンドポイントで NAM によって収集されたデータのサイトは、「未割り当て」に設定されます。

- ステップ 6** ルータを Mediatrace および WSMA 用に設定します (『*Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide*』の「[Troubleshooting with Mediatrace](#)」を参照)。

## データソースとしてルータおよびスイッチを使用するための Prime Infrastructure の設定

ネットワークがネットワーク トラフィックのモニタにシスコのルータとスイッチを使用する場合、次の手順を実行して、RTP および TCP フローの両方のパストレーシングを有効にします。Mediatrace でサポートされているすべてのルータおよびスイッチのリストを取得するには、『*Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide*』の「[Enabling NetFlow Data Collection](#)」を参照してください。

- ステップ 1** 組織のサイト構造を作成し、Device Work Center を使用して、適切なサイトに主要なルータを割り当てます。次の手順を実行します。
- a. [Design] > [Management Tools] > [Site Map Design] を選択します。
  - b. 1 つ以上のキャンパスを追加します。詳細については、『*Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide*』の「[Creating Locations or Sites](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 承認済みデータ ソースとサイトを関連付けます。次の手順を実行します。
- a. [Administration] > [System Settings] を選択してから、[Data Deduplication] を選択します。

- b. [Enable Data Deduplication] をクリックしてから、音声/ビデオ (RTP データ用) およびアプリケーション応答時間 (TCP データ用) に権限のあるデータ ソースを割り当てます。詳細については、「バックグラウンドデータの収集タスクの制御」(P.6-7) を参照してください。

**ステップ 3** エンドポイント サブネットにサイトを関連付けます。次の手順を実行します。

- a. [Design] > [Management Tools] > [Endpoint-Site Association] を選択します。
- b. サイトにサブネットを関連付けます。詳細については、『Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide』の「Associating Endpoints with a Location」を参照してください。



**(注)** この作業を怠ると、デフォルトでこれらのエンドポイントに対して収集されたデータのサイトは、「未割り当て」に設定されます。

**ステップ 4** Medianet Performance Monitor に対して互換性のあるルータを設定します。詳細については、「ルータとスイッチでの Mediatrace の設定」(P.12-3) を参照してください。

**ステップ 5** ルータを Mediatrace および WSMA 用に設定します (『Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide』の「Troubleshooting with Mediatrace」を参照)。

## ルータとスイッチでの Mediatrace の設定

Prime Infrastructure は、ルータおよびスイッチに Mediatrace を設定する、難しい設定が一切ないテンプレートを提供します。サービスパスをトレースする場合、使用するルータとスイッチのすべてにこの設定を適用する必要があります。

Mediatrace でサポートされているすべてのルータおよびスイッチのリストを取得するには、『Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide』の「Enabling NetFlow Data Collection」を参照してください。

### はじめる前に

次のタスクを完了する必要があります。

- 「データ ソースとして NAM デバイスを使用するための Prime Infrastructure の設定」(P.12-1)
- 「データ ソースとしてルータおよびスイッチを使用するための Prime Infrastructure の設定」(P.12-2)

Mediatrace-Responder-Configuration テンプレートを設定するには、次の手順を実行します。

**ステップ 1** [Design] > [Configuration] > [Feature Design] > [CLI Templates] > [System Templates - CLI] > [Mediatrace-Responder-Configuration] を選択します。

**ステップ 2** 必要な情報を入力します。フィールドの説明については、Cisco Prime Infrastructure 2.0 Reference Guide を参照してください。

**ステップ 3** [Save as New Template] をクリックします。テンプレートを保存した後、『Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide』の「Deploying and Monitoring Configuration Tasks」の手順を使用して、ルータに展開します。

# ルータおよびスイッチへの WSMA および HTTP (S) 機能の設定

サービスパスの詳細をトレースするには、Web Services Management Agent (WSMA) over HTTP プロトコルがルータとスイッチで **Mediatrace** コマンドを実行する必要があります。この機能は、[ルータとスイッチでの Mediatrace の設定](#) セクションに記載されている同じルータとスイッチのセットに設定します。

HTTP-HTTPS サーバおよび WSMA IOS 設定の IOS テンプレートを設定するには、次の手順を実行します。

---

**ステップ 1** [Design] > [Configuration] > [Feature Design] > [CLI Templates] > [System Templates - CLI] > [HTTP-HTTPS Server and WSMA Configuration-IOS] を選択します。

**ステップ 2** 必要な情報を入力します。フィールドの説明については、[Cisco Prime Infrastructure 2.0 Reference Guide](#) を参照してください。



---

**(注)** HTTP プロトコルを有効にします。WSMA over HTTPS は、Prime Infrastructure の現在のバージョンではサポートされていません。

---

**ステップ 3** [Save as New Template] をクリックします。テンプレートを保存した後、『Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide』の「[Deploying and Monitoring Configuration Tasks](#)」の手順を使用して、ルータに展開します。



---

**(注)** Device Work Center にデバイスを追加する場合、デバイスの HTTP ユーザおよびパスワードを入力する必要があります（『Cisco Prime Infrastructure 2.0 User Guide』の「[Device Work Center](#)」を参照）。

---